

フサオシャチホコの幼虫・蛹

境 良朗

フサオシャチホコ *Dudusa sphingiformis* Moore, 1872 は日本では対馬だけに分布する大陸系のシャチホコである。大型で開張は日本産シャチホコガ中最大となり、和名の由来となる腹部末端に毛状の房を有する（写真1）。国外では台湾、朝鮮半島、中国などに産するという（岸田編，2011）。

対馬での発生期は7月中旬～8月中旬で灯火にもよく飛来するが、やや山地性である。食餌植物として標準図鑑Ⅱでは、オニイタヤやその他のカエデ類（ムクロジ科）があげられているが、筆者はイロハカエデから幼虫を見いだすとともに蛹化を観察しているので報告する。



写真1 灯火に飛来

幼虫

- ・ 幼虫数頭，対馬市上県町深山-舟志線，31. VIII. 2005
- ・ 幼虫1ex.，対馬市上県町檜滝，16. IX. 2005

深山-舟志線では若令幼虫と終令幼虫が見られた。若令幼虫は葉柄に静止していたが、この段階から顕著な棘を有した特異な姿をしていた（写真2）。天敵から身を守る何らかの役目を果たしていると思われる。終令幼虫の体色は全体的に明るい黄色をしており、同様に刺毛が発達した棘が認められる（写真3）。一方、檜滝で得られた終令幼虫の体色は暗いオレンジ色で、対馬の生物（1976）に図示されている個体も同色である。このことから、終令幼虫の色彩には黄色型と赤色型の2型があることが分る。葉柄の途中に噛み傷を入れ、葉を引き寄せて食べる様子も見られた（写真4）。



写真2 若令幼虫



写真3 終令幼虫 黄色型



写真4 終令幼虫 赤色型

蛹化～蛹



写真5 蛹化のために土に潜る



写真6 蛹

上記の8月31日に採集した終令幼虫を飼育していたところ、9月3日に突然食餌植物を離れ、迷うことなくあっという間に土中に潜り込んでしまった（写真5）。前蛹状態は確認できなかったが、4日後の9月7日に掘り起こしてみると既に蛹化が完了していた（写真6）。年1化であるので、このまま蛹の状態で土中で越冬し、翌夏に羽化して来るものと思われる。

最後になるが、本種の幼虫について多くの有益な情報を提供して頂いた杉憲氏にお礼申し上げます。

引用文献

岸田他，2011．日本産蛾類標準図鑑II．128．学研，東京

中臣謙太郎，1976．対馬で発見されたシャチホコガ2種の幼虫．対馬の生物：461-462